

5 病院事業

(1) 事業数及び経営規模

令和4年度における県内の市町村等が経営する病院事業の数は前年度と同数の18事業で、その病院数も前年度と同数の27病院となっている。事業数及び病院数のうち、1事業1病院（女川町）は想定企業会計である。

※ 想定企業会計とは、従前は公営企業会計として特別会計を設置していたが、現在はこれを廃止し、一般会計等において精算及び地方債の償還を行っている場合等において、決算統計上、これに係る一切の収支を一般会計等から分別し、当該事業に係る公営企業会計が設けられているものと想定し、当該想定企業会計において経理されたものとして取り扱っている会計のことをいう。

病院（想定企業会計を除く。）を経営主体別にみると、市営が16病院、町営が6病院、一部事務組合営が4病院となっている。

【市営：7事業16病院】

仙台市、石巻市（2病院）、塩竈市、気仙沼市（2病院）、登米市（3病院）、栗原市（3病院）、大崎市（4病院）

【町営：6事業6病院】

蔵王町、川崎町、丸森町、涌谷町、美里町、南三陸町

【一部事務組合営：4事業4病院】

白石市外二町組合、黒川地域行政事務組合、加美郡保健医療福祉行政事務組合、みやぎ県南中核病院企業団

経営規模別にみると、300床以上は前年度と同数の5病院、200床以上300床未満は前年度から皆減（1病院減少）、100床以上200床未満は6病院で前年度に比べ1病院増加、50床以上100床未満は前年度と同数の9病院、50床未満も前年度と同数の6病院となっている。このうち、300床以上の病院は、仙台市立病院（525床）、大崎市民病院本院（500床）、気仙沼市立病院（340床）、栗原市立栗原中央病院（313床）及びみやぎ県南中核病院（310床）で、いずれも地域の基幹病院として機能している。

また、地方公営企業法の規定の全部を適用している事業は前年度と同数の8事業（仙台市、気仙沼市、塩竈市、登米市、栗原市、大崎市、涌谷町及びみやぎ県南中核病院企業団）、一部を適用している事業も前年度と同数の8事業、指定管理者制度導入も前年度と同数の1事業（黒川地域行政事務組合）となっている。

第1表 経営主体別・経営規模別の状況

（単位：病院、床、％）

経営規模	市		町		一組		計		構 成 比		
	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数	病 床 数		
300床以上	4	1,678	0	0	1	310	5	1,988	19.2	50.4	
200床以上300床未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	
100床以上200床未満	3	539	1	121	2	369	6	1,029	23.1	26.1	
50床以上100床未満	4	328	4	288	1	90	9	706	34.6	17.9	
50床未満	5	188	1	36	0	0	6	224	23.1	5.7	
計（病院）	16	2,733	6	445	4	769	26	3,947	100.0	100.0	
経営形態	全部適用	6		1		1		8		47.1	
	一部適用	1		5		2		8		47.1	
	指定管理者（利用料金制）	0		0		1		1		5.9	
	計（事業）	7		6		4		17		100.0	

（注）病院数は、年度末現在の数である。

(2) 業務の状況

令和4年度末における病床数は3,947床で、前年度に比べ8床(0.2%)減床している。病院別では、公立刈田総合病院が8床の減床を行っている。

患者数は、年延入院患者数が1,005千人で、前年度に比べ5千人(0.5%)減少、年延外来患者数は1,761千人で、前年度に比べ8千人(0.5%)増加している。また、1病院当たりの1日平均入院患者数は前年度と同数の106人で、1病院当たりの1日平均外来患者数も前年度と同数の276人となっている。

病床利用率は69.7%で、前年度に比べ0.2ポイント低下している。このうち、一般病床利用率は70.6%で、前年度に比べ0.3ポイント低下している。

第2表 病床数及び患者数の推移

年 度		H30	R1	R2	R3	R4	対前年度比較	
							(2)-(1)	((3)/(1))
項 目							(3)	×100(%)
							(1)	(2)
年度末病床数(床)		4,214	4,174	4,110	3,955	3,947	▲8	▲0.2
年 延 患 者 数 (千人)	入 院	1,112	1,112	1,021	1,010	1,005	▲5	▲0.5
	外 来	1,928	1,875	1,705	1,753	1,761	8	0.5
一 日 平 均 患 者 数 (人/1病院)	入 院	117	117	108	106	106	0	0.0
	外 来	301	297	268	276	276	0	0.0
病 床 利 用 率 (%)		(72.9)	(73.5)	(69.7)	(70.9)	(70.6)	(▲0.3)	-
		72.3	72.2	68.1	69.9	69.7	▲0.2	-

(注)病床利用率欄の()内は、一般病床分である。

(3) 経営状況

ア 損益収支の状況

病院事業の経常収益は1,064億49百万円、経常費用は1,048億87百万円となっており、この結果、経常収支比率が101.5%となり、前年度に比べ1.7ポイント低下している。

経常利益が生じた事業は17事業(想定企業会計を除く。)のうち12事業(病院数では26病院のうち18病院)で、前年度と同数(病院数は1病院増加)となっており、その額は29億82百万円で、前年度に比べ25億66百万円(46.2%)減少している。

経常損失が生じた事業は5事業(8病院)で、前年度と同数(病院数は1病院減少)となっており、その額は14億20百万円で、前年度に比べ7億89百万円(35.7%)減少している。

経常収益に特別利益を加えた総収益は1,069億4百万円、経常費用に特別損失を加えた総費用は1,057億32百万円となっており、この結果、総収支比率は101.1%で、前年度に比べ3.9ポイント低下している。

経常損益に特別損益を加減した純損益をみると、11億71百万円の黒字が生じており、前年度に比べ黒字が39億98百万円(77.3%)減少している。

累積欠損金を有する事業は17事業(25病院)で、前年度から1事業増加(病院は1病院増加)となっており、その額は869億71百万円で、前年度に比べ44億81百万円(4.9%)減少している。

不良債務を有する事業は1事業で、前年度と同数となっており、その額は1億47百万円で、前年度に比べ84百万円(36.4%)減少している。

第3表 病院事業の損益収支状況の推移

(単位:事業、百万円、%)

項目	年度	H30	R1	R2	R3 (1)	R4 (2)	対前年度比較	
							(2)-(1) (3)	((3)/(1)) ×100
総 収 益	A	98,625	99,954	106,112	108,996	106,904	▲2,092	▲1.9
経 常 収 益	B	97,864	99,550	102,819	106,652	106,449	▲203	▲0.2
医 業 収 益	C	83,131	84,856	82,395	83,310	86,186	2,875	3.5
うち料金収入		75,432	76,976	74,706	75,005	78,216	3,211	4.3
うち受託工事収益	D	0	0	0	0	0	0	-
特 別 利 益		761	404	3,293	2,345	455	▲1,890	▲80.6
総 費 用	E	103,492	105,798	108,007	103,827	105,732	1,905	1.8
経 常 費 用	F	103,152	105,081	104,514	103,313	104,887	1,574	1.5
医 業 費 用		98,472	99,941	99,275	98,142	99,666	1,524	1.6
うち職員給与費		44,098	44,507	50,242	49,966	50,677	711	1.4
支 払 利 息		1,456	1,410	1,282	1,133	959	▲174	▲15.4
特 別 損 失		340	717	3,492	514	845	331	64.4
経 常 損 益		▲5,289	▲5,531	▲1,696	3,338	1,561	▲1,777	▲53.2
経 常 利 益		390	339	1,104	5,547	2,982	▲2,566	▲46.2
経 常 損 失	G	5,679	5,870	2,799	2,209	1,420	▲789	▲35.7
純 損 益		▲4,868	▲5,844	▲1,895	5,169	1,171	▲3,998	▲77.3
純 利 益		739	489	1,283	7,416	2,986	▲4,431	▲59.7
純 損 失		5,607	6,333	3,177	2,247	1,814	▲433	▲19.3
累 積 欠 損 金	H	95,210	100,978	100,413	91,453	86,971	▲4,481	▲4.9
不 良 債 務	I	1,914	2,571	1,566	231	147	▲84	▲36.4
経 常 収 支 比 率 B/F		94.9	94.7	98.4	103.2	101.5	▲1.7	-
総 収 支 比 率 A/E		95.3	94.5	98.2	105.0	101.1	▲3.9	-
医業収益 に対する 割合	経常損失比率 G/(C-D)	6.8	6.9	3.4	2.7	1.6	▲1.1	-
	累積欠損金比率 H/(C-D)	114.5	119.0	121.9	109.8	100.9	▲8.9	-
	不良債務比率 I/(C-D)	2.3	3.0	1.9	0.3	0.2	▲0.1	-
総 事 業 数	J	18	18	18	18	18	0	0.0
経常損失を生じた事業数	K	14	14	11	5	5	0	0.0
累積欠損金を有する事業数	L	16	17	17	16	17	1	6.3
不良債務を有する事業数	M	3	5	4	1	1	0	0.0
総事業数 に対する 割合	経常損失を生じた事業数 K/J	77.8	77.8	55.6	27.8	27.8	0.0	-
	累積欠損金を有する事業数 L/J	88.9	94.4	94.4	88.9	94.4	5.6	-
	不良債務を有する事業数 M/J	16.7	27.8	22.2	5.6	5.6	0.0	-

(注) 不良債務=(流動負債-建設改良等の財源に充てるための企業債-建設改良等の財源に充てるための長期借入金-地方債に関する省令附則第8条の3に係るリース債務(PFI法に基づく事業に係る建設事業費等))-流動資産-翌年度へ繰り越される支出の財源充当額)

イ 資本収支の状況

病院事業の資本的支出は128億36百万円で、前年度に比べ3億39百万円（2.7%）増加している。このうち、建設改良費は40億12百万円で、前年度に比べ11億9百万円（21.7%）減少しており、企業債償還金は71億41百万円で、前年度に比べ1億59百万円（2.2%）減少している。

資本的支出の財源は、外部資金が企業債や他会計出資金等の98億69百万円であり、内部資金（資本的収入が資本的支出に不足する分の補てん財源）が損益勘定留保資金等の29億67百万円である。

なお、資本的支出に占める建設改良費の割合は31.3%で、前年度に比べ9.7ポイント低下しており、建設改良のための企業債償還金の割合は55.1%で、前年度に比べ2.1ポイント低下している。

第4表 病院事業の資本収支状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目		年 度					対前年度比較	
		H30	R1	R2	R3 (1)	R4 (2)	(2)-(1) (3)	((3)/(1)) ×100
資本的支出	建設改良費	5,369	4,386	5,067	5,121	4,012	▲1,109	▲21.7
	企業債償還金	7,661	7,686	7,129	7,300	7,141	▲159	▲2.2
	うち建設改良費のためのもの	7,593	7,608	7,051	7,152	7,070	▲83	▲1.2
	その他の	109	69	463	75	1,682	1,607	2,144.2
	計	13,139	12,141	12,658	12,497	12,836	339	2.7
同 上 財 源	内部資金	2,407	2,407	1,722	1,737	2,967	1,230	70.8
	外部資金	10,732	9,233	10,335	10,713	9,869	▲845	▲7.9
	企業債	4,420	3,860	4,020	4,006	2,733	▲1,273	▲31.8
	うち建設改良費のためのもの	4,420	3,860	3,264	4,006	2,733	▲1,273	▲31.8
	他会計出資金	4,414	4,009	4,384	4,795	4,112	▲683	▲14.3
	他会計負担金	1,352	1,399	1,281	1,361	2,038	677	49.7
	他会計借入金	0	0	90	0	0	0	-
	他会計補助金	300	41	31	32	32	0	0.7
	国・県補助金	132	112	799	945	831	▲114	▲12.0
	繰越事業財源(▲)	0	221	79	3	0	▲3	皆減
計	13,139	11,639	12,057	12,450	12,836	386	3.1	
財源不足額	0	501	602	47	0	▲47	皆減	
当年度同意等債で未借入又は未発行の額	0	0	156	47	0	▲47	皆減	
実質財源不足額	0	501	446	0	0	0	-	

(注)1 内部資金=補てん財源合計額-前年度からの繰越工事資金+固定資産売却代金

2 外部資金=資本的支出額-(内部資金+財源不足額)

ウ 料金収入の状況

料金収入(入院・外来収益)は782億16百万円で、前年度に比べ32億11百万円(4.3%)増加している。

患者1人1日当たりの診療収入は、入院収益が5万725円で、前年度に比べ2,142円(4.4%)増加しており、外来収益が1万5,472円で672円(4.5%)増加している。

職員1人1日当たりの診療収入は、医師1人当たりでは27万548円で11,589円(4.5%)増加しており、看護部門1人当たりでは6万804円で2,912円(5.0%)増加している。

第5表 料金収入の状況の推移

(単位:円、%)

年 度		H30	R1	R2	R3	R4	対前年度比較	
							(2)-(1)	((3)/(1))
項 目					(1)	(2)	(3)	×100
料 金 収 入 (百万円)		75,432	76,976	74,706	75,005	78,216	3,211	4.3
内 訳	入院収益 (百万円)	50,205	50,786	49,460	49,054	50,964	1,909	3.9
	外来収益 (百万円)	25,228	26,189	25,246	25,950	27,252	1,302	5.0
患者1人1日 当たり診療 収 入	入 院	45,161	45,665	48,420	48,583	50,725	2,142	4.4
	外 来	13,086	13,970	14,810	14,800	15,472	672	4.5
職員1人1日 当たり診療 収 入	医 師	266,535	287,893	238,507	258,960	270,548	11,589	4.5
	看護部門	57,780	58,422	56,980	57,892	60,804	2,912	5.0

エ 他会計繰入金の状況

他会計からの繰入金（借入金を含む。）は、収益的収入（特別利益を含む。）に計上される繰入金
が133億82百万円、資本的収入に計上される繰入金が61億82百万円、合わせて195億
63百万円で、前年度に比べ5億54百万円（2.8%）減少している。

収益的収入に計上される他会計からの繰入金の総収益に対する割合は12.5%で、前年度に比
べ0.3ポイント低下しており、資本的収入に計上される他会計からの繰入金の資本的収入合計に
対する割合は62.6%で、前年度に比べ7.5ポイント上昇している。

病床1床当たりの他会計からの繰入金は495万7千円で、前年度に比べ13万円（2.6%）
減少している。

第6表 他会計からの繰入金の状況の推移

（単位：百万円、%）

項 目		年 度	H30	R1	R2	R3 (1)	R4 (2)	対前年度比較	
								(2)-(1) (3)	((3)/(1)) ×100
他 会 計 か ら の 繰 入 金	収 益 的 収 入 A	14,263	13,805	14,623	13,929	13,382	▲547	▲3.9	
	う ち	負 担 金	11,074	10,518	10,956	10,885	10,670	▲215	▲2.0
		補 助 金	3,152	3,240	3,621	2,948	2,655	▲292	▲9.9
		資 本 費 繰 入 収 益	0	0	0	0	0	0	-
		特 別 利 益	36	46	46	96	57	▲39	▲40.7
	資 本 的 収 入 B	6,066	5,449	5,786	6,188	6,182	▲7	▲0.1	
	う ち	出 資 金	4,414	4,009	4,384	4,795	4,112	▲683	▲14.3
		負 担 金	1,352	1,399	1,281	1,361	2,038	677	49.7
		借 入 金	0	0	90	0	0	0	-
		補 助 金	300	41	31	32	32	0	0.7
計 (A+B)		20,329	19,254	20,410	20,117	19,563	▲554	▲2.8	
総 収 益 C		98,625	99,954	106,112	108,996	106,904	▲2,092	▲1.9	
資 本 的 収 入 D		10,732	9,254	10,634	11,232	9,873	▲1,359	▲12.1	
繰 入 率	総収益に対する繰入率 A/C	14.5	13.8	13.8	12.8	12.5	▲0.3	-	
	資本的収入に対する繰入率 B/D	56.5	58.9	54.4	55.1	62.6	7.5	-	
一 床 当 た り	収 益 的 収 入 (千円)	3,385	3,307	3,558	3,522	3,390	▲131	▲3.7	
	資 本 的 収 入 (千円)	1,439	1,305	1,408	1,565	1,566	1	0.1	
	計 (千円)	4,824	4,613	4,966	5,087	4,957	▲130	▲2.6	

※ 一床当たり繰入金 = $\frac{\text{他会計繰入金}}{\text{年度末病床数}}$

オ 職員給与費の状況

職員1人当たり平均給与月額、医師が89万2,975円、看護師が46万7,284円、准看護師が32万9,905円、事務職員が35万1,639円、その他の職員が36万199円、全職員平均では50万3,868円で、前年度に比べ8,192円(1.7%)増加している。

第7表 職員別給与(平均給与月額)の状況の推移

(単位:円、%)

年度 項目	H30	R1	R2	R3 (1)	R4 (2)	対前年度比較	
						(2)-(1) (3)	((3)/(1)) ×100
医師	1,488,585	1,478,529	654,214	865,569	892,975	27,406	3.2
看護師	466,114	470,967	457,446	460,418	467,284	6,866	1.5
准看護師	466,801	451,667	293,752	309,162	329,905	20,743	6.7
事務職員	493,094	493,318	329,289	344,625	351,639	7,014	2.0
その他職員	430,698	433,785	351,083	361,025	360,199	▲826	▲0.2
全職員	565,596	568,844	462,028	495,676	503,868	8,192	1.7

(注)1 管理者及び臨時職員を除く。

2 平均給与月額=(基本給+手当)/年間延職員数

カ 業務量の状況

職員1人当たりの患者数は400人で、前年度に比べ4人(0.9%)減少しており、職員1人当たりの料金収入は1,131万1千円で、前年度に比べ34万9千円(3.2%)増加している。

病床100床当たりの職員数は、医師が29.9人、看護部門職員が92.5人、全職員では175.2人で、前年度に比べ2.2人(1.3%)増加している。

第8表 職員業務量の状況の推移

年度 項目	H30	R1	R2	R3 (1)	R4 (2)	対前年度比較		
						(2)-(1) (3)	((3)/(1)) ×100(%)	
職員1人当たり患者数(人)	568	558	352	404	400	▲4	▲0.9	
職員1人当たり料金収入(千円)	14,100	14,375	9,644	10,962	11,311	349	3.2	
病床100 床当たり 職員数	医師(人)	17.4	17.7	47.6	27.6	29.9	2.3	8.3
	看護部門(人)	87.2	86.8	91.1	93.4	92.5	▲0.9	▲1.0
	全職員(人)	149.1	149.6	188.5	173.0	175.2	2.2	1.3

キ 材料費の状況

薬品等の医療材料費は200億95百万円で、前年度に比べ8億30百万円（4.3%）増加している。これを料金収入に対する割合で見ると25.7%で、前年度と同数となっている。

医療材料費のうち、薬品費は106億52百万円で、前年度に比べ7億79百万円（7.9%）増加しており、患者1人当たりの薬品費は3,851円で、前年度に比べ278円（7.8%）増加している。

第9表 料金収入に対する材料費の状況の推移

(単位:百万円、%)

項 目		年 度					対前年度比較		
		H30	R1	R2	R3 (1)	R4 (2)	(2)-(1) (3)	((3)/(1)) ×100	
料 金 収 入		75,432	76,976	74,706	75,005	78,216	3,211	4.3	
医 療 材 料 費		17,670	18,402	18,063	19,265	20,095	830	4.3	
う ち	薬 品 費	9,031	9,775	9,375	9,873	10,652	779	7.9	
	そ の 他 材 料 費	8,638	8,627	8,688	9,392	9,443	51	0.5	
料金収入 に対する 割 合	医 療 材 料 費	23.4	23.9	24.2	25.7	25.7	0.0	-	
	う ち	薬 品 費	12.0	12.7	12.5	13.2	13.6	0.4	-
		そ の 他 材 料 費	11.5	11.2	11.6	12.5	12.1	▲0.4	-
患者1人当たり薬品費(円)		2,971	3,273	3,439	3,573	3,851	278	7.8	